



野田地区 防災計画



野田地域活動協議会
福島区役所



平成 29 年 3 月作成

も く じ

1 基本方針	1
1. 目 的	
2. 計画の対象地域	
3. 活動目標	
2 野田地域の特性と予想される災害	2
1. 地域の特性	
2. 防災面からみた野田地域	
3. 海溝型地震（南海トラフ巨大地震）	
4. 直下型地震（上町断層での地震）	
5. 液状化可能性想定図	
6. 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害	
7. 福島区の被害想定	
8. 野田地域の被害想定	
3 自主防災組織（地域災害対策本部、避難所運営委員会、町会）	7
1. 組 織	
2. 本部の役割・組織図	
3. 避難所運営委員会の組織図・役割	
4. 町会の自主防災組織図・役割	
4 自主防災組織および個人の日頃の取り組みと発災時の行動	10
1. 日頃の取り組み	
2. 災害時の取り組み	
5 避難行動要支援者支援計画	13
1. 要援護者名簿を活用した支援の実施	
2. 「避難行動要支援者名簿」の作成	
3. 「避難行動要支援者名簿」の管理方法	
4. 「支援者」の募集	
5. 「避難支援プラン（個別計画）」の作成	
6. 避難行動要支援者の自助	
6 災害時ボランティア	15
7 備蓄物資等	15
8 自主防災組織の訓練	17
9 その他	17
防災マップ	18
〈資料編〉	20

1 基本方針

1. 目的

この計画は、地震など大災害による被害の発生・拡大を防止するため、「自分と家族の命は自分で守る『自助』」という心構えで、「地域 みんなが助け合い『共助』」一体となって地域の防災力向上に取り組むことを目的とします。

2. 計画の対象地域

この計画の対象地域は、野田連合（野田1丁目、2丁目、3丁目、4丁目、5丁目、6丁目）とします。

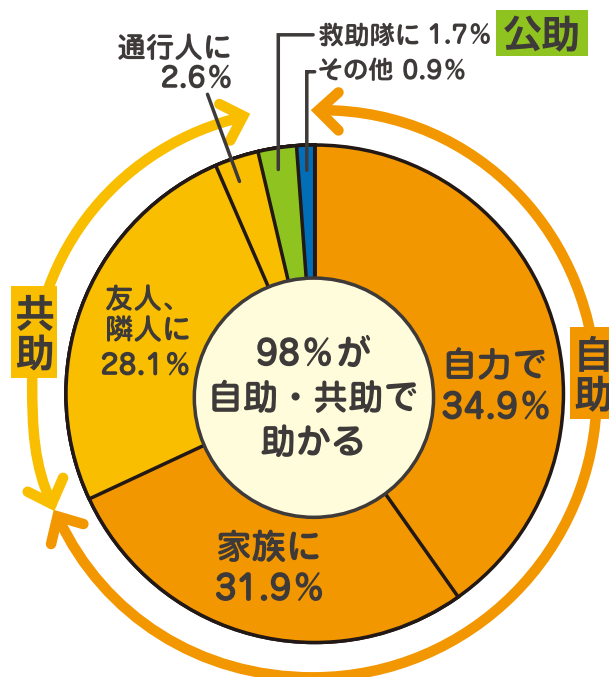
3. 活動目標

地域の住民、自主防災組織の各メンバーによる『自助』・『共助』を基本とした継続的な防災活動や訓練を実施し、防災力向上に努めます。



災害被害を軽減するには、これらの連携が重要です。

自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること
共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと
公助：国や市の行政機関が対策を行うこと



（社）日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助と共助で助けられました。一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。

2 野田地域の特性と予想される災害

1. 地域の特性

JR大阪環状線「野田」駅南側に位置し安治川に面した地域です。戦前から建つ古くからの住宅が密集している地区が多い一方、此花区と隣接する西側には、大規模マンションが建っています。南側には、安治川に面して食の台所である大阪中央卸売市場が位置しています。昔ながらの住宅が多く、夏には地区内で地蔵盆が行われるなど、地域のつながりが強い地域です。

2. 防災面からみた野田地域

野田地域を防災面からみると、昔からの木造家屋が路地に面して多く建っており、火災が発生した場合、消防車が近くまで行くことができないため、被害が拡大する恐れがあります。

地震の揺れによる家屋の倒壊の危険性が高く、倒壊した家屋が道路をふさぎ、通行が遮断される恐れがあり、消火活動や家屋の下敷きになった住民の救助が、困難となることが想定されます。公的な救助部隊がかけつけ、本格的救助が始まるまでの間、住民同士で助け合い、救出・救護、初期消火するための、具体的行動を決めることが必要となってきます。

また、近い将来、発生すると想定されている南海トラフ巨大地震による津波や局地的豪雨による内水氾濫が起きた場合には、2万人以上の避難者を受け入れることができる大阪中央卸売市場が避難場所に指定されていますが、自力では避難が困難な高齢者や障がい者をどのように支援するかが課題となっています。



昭和 36 年 第 2 室戸台風 野田 5 丁目付近